

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>運営基本理念の第5項目に掲げている。</p>	<p>具体的ではないため、全体で話し合っ考えていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>意識付けのため、施設内の目に付く場所に掲示し、また毎月の勉強会や、ミーティング時は理念を確認しながら日々取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>事業所内に掲示すると共に、パンフレットに明示している。また、運営推進会議にて町内の理解を得ることができ、町内の掲示板にみずばしょう苑のコーナーを設けていただきました。毎月の苑便りや、認知症や高齢者に関する情報を掲示し、理解をいただけるよう努力しております。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>町会費を納め、様々な町内の催しに参加するよう努めている。地域の方によるボランティア活動での参加も受け付けている。また、運営推進会議でもその事について、毎回町内の方々と話し合っている。町内の催し物への参加の知らせや、誘いなどをうけて、交流ができてきている。地域の一人暮らしの高齢者を対象とした食事会の中で「認知症について」と題し講師をすることができ、多くの方が認知症について不安を抱えていることがわかり、また、積極的な質問や相談などもあり、今後もこのような機会を多く作っていかうと思っている。</p>	<p>地域の方に役立つ活動(介護相談支援や健康相談、認知症についての相談など)をオープンにし、ご近所の人たちに気軽に立ち寄っていただけるよう努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している</p>		<p>職員全体での理解の確認は出来ていないが、学習会を行い、またマニュアルを作成して、理解への支援は行っている。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>随時、新任職員への研修実施、研修レポート提出による理解度の確認</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10 契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び解約の際には、必ず管理者が立ち会う事を原則とし、入居や退去時の十分な説明を行い、同意を得ている。		
11 運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に明示し、説明を行っている。また、日常的に管理者や職員は入居者や家族のの不満や苦情を聴くようにして、それらの改善に努めている。		運営推進会議への入居者と家族の参加を導入している。
12 家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会ごとに、様々な報告を行っている。毎月、苑便りと「様の最近の様子」という内容の手紙の手紙にて個々の報告を行ったり、また、受診や緊急の際には電話にて連絡を取っている。		
13 運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に明示し、説明を行っている。また、運営推進会議では全家族にお声をかけ、参加し、意見をいただけるよう、また、それら意見を反映できるよう努めている。		
14 運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングの際には職員の意見や提案を積極的に取り入れている。また、職員が自由に発言できる環境にある。		
15 柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状態や状況の変化に合わせ、臨機応変な対応ができるような人員の配置は行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>やむを得なく職員の移動はあったが、その際には、前もってその事についての職員間の話し合いをし、利用者が不穏にならず、配慮ができたと思われる。</p>		
<p><b>5.人材の育成と支援</b></p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月1回のweb研修の他、西棟ではピンポイントな内容で勉強会を実施し、ほぼ全員自発的に学習できている。外部研修への積極的な参加の斡旋。研修後は復命書にて報告を義務付けている。個人面談にて、過去の学習状況を確認し、これからの目標等についての支援を行うようにしている。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>連携するグループホームと相互評価を行い、互いのサービス向上にむけて意見交換をし、今後活かしている。東部地域包括支援センター区域内のグループホームの管理者がそれぞれ講師を務め、毎月勉強会を行っており、同業者との交流もできている。</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>敷地内に冷暖房完備で、休憩室を用意している。管理者は職員の発言の機会を多く作り、意見を反映するように努めている。また、業務への不満や疑問に対しても、上司に相談し、できるだけ働きやすい環境への改善を努力している。体調への配慮も同時に行い、不良者への対応も可能なように人員を配置している。</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>毎月の学習会。目標をそれぞれ持つことで、向上心をもって働けるよう努めている。個人面談にて個人別の目標を管理者は把握し、援助するようにしている。管理者・職員の知識向上や、介護技術や援助技術を向上させ、より良いホーム作りを目指す。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>良く聴く機会を設けるよう積極的に努めている。意見を柔軟に受け入れ、互いに話し合い、良い方向へ向かうよう努めている。</p>	<p>「何か、困っていることはありますか?」と、積極的に聴く姿勢をとり、柔軟な対応ができるよう、職員全体に指導している。</p>
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>インテークの様式を見直し、作成し直し、それを基に対応している。 対応できる事については柔軟に実行している。</p>	<p>認知症の専門医受診の重要性を説明・理解をいただけるよう努めている。また、在宅での介護意思が家族にあり、それが可能であれば様々なケア資源を紹介している。当苑のみの見学者には他のGHの見学もすすめている。</p>
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>なじみの私物の持込を必須として、ご協力頂いている。ご本人様の不安への対応として、ご家族に相談しながら協力的に行っている。</p>	<p>可能な限り、面会をお願いしている。また、ご家族様の行事参加や、ご家族様との散歩や買い物、食事など、ご家族様の協力のおかげで入居者様の不穏回数の軽減に繋がっている。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>担当制を超えて、どの職員も柔軟に対応できるようコミュニケーションに時間をかけ、信頼関係に近づけるよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の要望に対し、ご家族と相談しながら対応を考えることで、共に支え合う形になっている。		毎月、担当職員から入居者様の最近の様子と題したお手紙を宛便りと一緒にご家族様宛てに送付していることで、毎回ご本人の心身の変化や様子が解ってとても助かるとご家族様からも支持されている。
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	離れて住む事でお互いに対して優しくなれた、気持ちにゆとりが持てるようになった、等とご家族やご本人様からの申し出があった。 通院や面会や電話、外出・外泊等でご家族様と一緒に過ごせるよう支援している。(入居時から関わりをもつようご家族に依頼している。)		もともと隣町の方で、入居中、帰宅の要求の強い方でした。その方が入院の際、ご家族の暮らす隣町の病院に入院できるよう支援し、最後はご家族に看取られ、ご家族様は結果としてよかったと言って下さいました。
27 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に毎月入居者様から伝えたいことと題して手紙を出している。 なじみの病院、なじみの美容院など大切に継続できるよう支援している。		
28 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の席や、休憩場所をそれぞれに考慮しながら対応している。 介護度の重い入居者様に対して、元気な入居者様が自ら手を貸している。入居者同士、声を掛け合い家事の手伝いをしてきている。		一緒に仲良くを合言葉に手伝っていただいているが、時々縄張り争いになるときがあるため、職員は対応等に充分気をつけている。
29 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された方を次のサービスへ繋げたり、それぞれの地域別の居宅介護支援事業所への紹介を行っている。また、退院後の相談も承っている。		サービスの継続がスムーズに運ぶよう、情報提供書にて、ご家族の了解のもと、本人のケアに必要な様々な情報を提供している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者様参加の会議を開催したり、日常の中で入居者様との関わりを増やして入居者様自身が自由に発言できるように支援している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居者様ご本人やご家族様からの情報や、それまでのサービス機関等からも情報を頂くようにして、これまでのライフスタイルの把握に努め、現在のケアにつなげている。</p>	センター方式の活用。
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎朝のバイタルチェックや毎月の体重測定、食事の様子や睡眠状態、排泄状況など健康管理を行うと共に、コミュニケーションを多くとることで、一人ひとりの現状把握に努めている。</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>会議やカンファレンス時のみに関わらず、日頃より課題やケアのあり方について職員同士意見交換しており、また、ご本人やご家族様に相談の機会を設けて、意見やアイデアをいただき、それを反映した介護計画としている。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>現状を把握した上で会議を開き、介護計画の変更を行い、その都度ご家族様に説明、了解を得るように行っている。また、更新や変更などによって介護度が変化した際も、その都度見直しを検討している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>記録用個人ファイルを用意して、各種様式に記録し、共有している。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療協力体制や移送・外出支援等を組み合わせながら、利用者と家族等との暮らしの継続性を支援するための柔軟な対応を行っている。また、本人の希望を聞き、可能な限り外出・外泊支援を行っている。</p>		
<p><b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b></p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>カラオケや手踊り、避難訓練、救命訓練、警察など様々な分野からの協力を得て支援している。</p>		<p>郷土料理教室を地域婦人会に協力依頼している。警察による巡回がある。小学校の校外学習に協力したり、行事の招待をうけている。掲示板にて、地域の方に情報提供している。</p>
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>必要性に応じ、本人や家族・医師と相談し、体の拘縮に対して訪問マッサージのサービス利用の支援をしている。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターと協働し、入居の支援や関係機関との研修会へ参加するなどして連携をとっている。</p>		<p>地域包括内での研修会や利用相談、空室の情報交換など連絡を取り合い連携をとっている。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族様が希望する医療機関を受診できるよう支援している。 できる範囲で、ご家族様にも協力していただいている。		往診のお願いできる協力医療機関には現在毎月10名の入居者様が利用している。
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に対して専門医の診断や治療の重要性を説明し、理解いただけるよう努めている。 支援もしている。		認知症に詳しい医師(専門医)との関係は特にはないが、入居者様の大半が現在認知症の専門医の診断を受けられており、直接職員の相談にも専門医より対応してもらっている。
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの看護職員や協力医療機関の看護に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		24時間体制ではないため今後の課題である。
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の医療機関とは、情報交換を密にとり、早期退院に向けて支援している。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	24時間完全看護体制でない事を理解いただき、早期よりご本人やご家族、主治医及び医療機関と話し合い、全員で方針を共有している。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居の契約の際に、「できる事・できない事」の理解を頂き、できる限りで対応している。 また、状態の変化に備えて、今後の方向性や準備などを医師や家族と共に検討している。		ある入居者様は、生まれ育った隣町に帰って死にたいと強く望み、ご家族や主治医の協力があがり、隣町の病院に入院できました。その後、ご家族に看取られ、お亡くなりになった方のご家族より、「本人にやっと親孝行できたような気がする」と言われ、ご本人の望むターミナルへの支援は大切なんだなと思いました。果たして、何人の入居者様が「ここ(苑)で死にたい」と支持されるかが今後の大きな課題かもしれません。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他事業所および家族より入所カンファレンスなどにて、意見や情報資料を基に、方法の交換を行い、リロケーションダメージを防げるよう配慮に努めている。		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
47 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様の希望を基に、個々の能力に合わせ、自己決定のできるよう働きかけ、支援に努めている。		
49 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースやその日の希望、身体・精神状況に合わせた柔軟な支援を行っている。		散歩、買い物、理・美容院の利用など希望時、可能な限り対応している。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人の望む店に出かけられるよう支援している。さりげなく衣類調整をしながら季節感のあるご本人の望む服装が出来るよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実施している。 職員が入居者様と会話しながら嗜好調査をしている。 また、職員が食事を一緒に食べることによって、会話 もはずむ他、食事状況も毎回把握できている。入居者 様が自発的に茶碗洗いなどを手伝われたりと楽しみな がら役割をこなされている。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、 好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常 的に楽しめるよう支援している	健康管理に気を配り実施している。		
53 気持よい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひ とりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気 持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンとご本人の希望を取り入れ、個人にあっ た定時のおむつ交換を実施している。 一人ひとりの排泄状況の把握のため、排泄表をつけ ている。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、 入浴を楽しめるように支援している	ご本人の希望の時間や体調に合わせて入浴してい ただくようにしている。入浴でない日も毎日足浴を促し サービスすることでコミュニケーションを楽しみながら 支援している。(任意重視での実施)		
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応 じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう 支援している	その日の出来事や疲れ具合に応じて柔軟に休息を取 り入れている。		「睡眠」について勉強会を行い、睡眠を含めた休息に ついてを話し合いました。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽し みごと、気晴らしの支援をしている	気分転換とし、外出の機会をできるだけもてるよう、買 い物や散歩、ドライブに出かけている。 それぞれに合った家事を手伝っていただいている。 お部屋での一人の楽しみの時間も、見守りながら楽し んでいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、ご家族様とも相談してご本人に少額ではあるが持たせている。		金銭管理をご自分でおこなっていない利用者でも、買い物時には支払いをご自分で行ってもらう等の支援を行っている。
58 日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけご本人の希望に添えるよう体制をとって対応している。また、日頃より外出を大儀がる方にたいしても、気持ちよく外出できるよう言葉掛けなどで支援している。		事業所の車が軽乗用のため、一度に外出できる人数に限りがあり、支障のある際にはタクシー等を利用して対応している。
59 普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日頃より、新聞やテレビなどで情報を仕入れ、入居者様から「行ってみたい」と希望ができれば対応している。また、ご家族様との外食や外出の大切さをご家族様に説明し、ご協力いただいている。		
60 電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様には入居の際にご本人が希望した時に電話を掛けても差支えがないか確認を行い、そのことの大切さについても説明を行っている。また、ご本人宛にきた手紙などへのお返事についても支援を行っている。ほか、毎年の年賀状についても支援している。		電話の際には周囲への影響を配慮して、居室で使用していただくようにしている。
61 家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者様への影響を配慮しながら、出来るだけゆっくり気兼ねなく過ごしていただけるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルに基づき、拘束についての学習会等を通して理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	構造上の防犯上、鍵をしなければならない旨を入居者様、ご家族様に理解いただき、自由に外出できるよう「声をお掛けください」と掲示している。		入居者様からの「ちょっとあけてくれる？」のサインに素早く対応し、閉鎖的でないことへ配慮している。
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に、利用者のプライバシーに配慮しつつ、見守りし、安全に配慮している。		定時巡回時間を設け、人数の確認や安全の確認を行っている。
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	浴室は未使用時には鍵をかけるなどし、洗剤類や熱湯などからの危険防止を行っている。刃物についても、必ず施錠できる場所への保管とし、危険防止に努めている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「緊急時の対応」について勉強会を行っている。また、各入居者様の状況に応じた事故(転倒・窒息・誤薬・誤嚥・異食・行方不明・火傷など)を想定し、職員は勿論、ご家族様にもご協力を頂きながら、そうならないよう日頃より事故防止に取り組んでいる。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に2回訓練を実施し、全職員が訓練を受けている。		AEDを設置しており、その講習会も行い、全員が心肺蘇生の訓練も受けている。新人については消防での講習会を受けるように指導している。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練をおこなっている。地域の理解協力が得られるよう充分な働きかけや、マニュアルの作成などがされていない。		災害時、地域の人々の協力を得る為の方策を検討する。また、それらを具体的にマニュアル化する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		<p>マニュアルを作成し、いつでも職員がみれるように配置されている。</p>
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		<p>処方にて薬に変化があった際は速やかに職員に伝え、全員で理解するよう申し送りノートなどで伝達の確認をしている。</p>
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		<p>個別食事マニュアルを作成し、一人ひとりに対応している。また、水分量や食事量などに変化がみられた際は随時チェック表などを使い摂取量に気をつけている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、また対処法や予防について勉強会を行い、実践している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルを作成し、また衛生管理について勉強会を行い、新鮮で安全な食材と管理に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	畑、花壇の設置。 出入口への配慮(鉢植えの設置、看板の増設)を工夫し配慮している。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じることができるものを入居者様と一緒に装飾したり工夫している。また、使用する照明もやさしい物を選び、入居者様に不快を与えないよう配慮している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の他にチョコチョコとふれあいスペースを用意し、思い思いに活用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた物を居に持参されている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>居室内にはエアコンや加湿器などで、入居者様に合わせた温度・湿度設定にしている。(勿論、基準環境内で)</p> <p>温湿度計を設置して環境管理をしている。また、日中、晴れ間をみて換気をし、空気の入替えをしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要に応じて手すりを増設するなどして対応している。また、安全のため、注意を促す箇所には、赤色テープで、分かりやすい工夫をしている。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>トイレ出口の正面の壁面に大きな時計を用意して、夜間や日中の時間の混乱に対応している。また、同じ場に日めくりカレンダーを取り付け、係りになっている入居様が、毎日めくってくれることで、日にちの確認ができるようにしている。洗濯物を居室内に干すことで、混乱を防いでいる。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭に野菜・花を植え、入居者様の体力に応じ、草取り、収穫など一緒に行っている。</p> <p>季節ごとに装飾を一緒に行っている。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

西棟の平成21年度のチーム目標は「笑・コミュニケーション」です。

笑う門には福来ると、昔から言われております。西棟では、入居者様も職員も笑顔でいられたらと考えております。また、日常では心身の状態の変化の把握や、ひとりひとりの思いを理解するためにもコミュニケーションは大切な手段と考えております。マイナスからプラスの発想へ導くためにも、私たちは入居者様ひとりひとりのコミュニケーションを頑張ろう！そう全職員の意見がまとまり、目標としてたてました。

コミュニケーションがとれるといろいろな気づきにつながります。  
入居者様同士のコミュニケーションのお手伝いをする事で「仲間意識」が深まります。  
また、職員同士のコミュニケーションもうまくとれないと「チームケア」がうまくいきません。  
ご家族とのコミュニケーションを大切にすることでご家族の理解や協力にもつながります。